

2014年度 横浜国立大学提供科目

科目識別番号:YKED02

学 科 名 称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授 業 科 目 名:芸術文化論 I A(現代アート系) (Art and Culture IA (Contemporary Art))

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・火曜日・4時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:樽沼 範久

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

今年度は「空間構築」「環境美学」「インスタレーション・アート」をめぐる諸問題を主軸に展開していく予定です。歴史的知識・批評的知識を共有しつつ講義を行うために、「教科書」として Claire Bishop, *Installation Art: A Critical History* (London: Tate Publishing, 2005) とハル・フォスター編『視覚論』(樽沼範久訳、平凡社ライブラリー、2007) を選びます。授業に出席するには、「教科書」を各自で読んでこななければなりません。

【授業概要】

1. 環境・空間構築を考えるためのイントロダクション
 2. 環境の条件(1)
 3. 環境の条件(2)
 4. Bishop, *Installation Art*, “Introduction: Installation art and experience” を読む
 5. Chapter 1 “The dream scene” を読む(1)
 6. Chapter 1 “The dream scene” を読む (2)
 7. Chapter 2 “Heightened Perception” を読む(1)
 8. Chapter 2 “Heightened Perception” を読む(2)
 9. Chapter 3 “Mimetic Engulfment” を読む(1)
 10. Chapter 3 “Mimetic Engulfment” を読む(2)
 11. Chapter 4 “Activated Spectatorship” を読む(1)
 12. Chapter 4 “Activated Spectatorship” を読む(2)
 13. “Conclusion” を読む
 14. 「環境美学」再考—Timothy Morton, *Ecology without Nature: Rethinking Environmental Aesthetics*(1)
 15. 「環境美学」再考—Timothy Morton, *Ecology without Nature: Rethinking Environmental Aesthetics*(2)
- (※各回の項目は授業の進展に応じて変化する可能性がある。)

【授業方法】

講義形式。学期末に論考提出(本文 3,000 字目安)。

【履修目標】

「空間構築」「環境美学」「インスタレーション・アート」をめぐる諸問題について、歴史的知識・批評的能力を身につけること。

【成績評価の方法】

学期末に提出する論考(70%)、受講具合(30%)。

【教科書・参考書】

下記の2冊を各自で事前に(遅くとも4月末までに)入手のこと。

1) Claire Bishop, *Installation Art: A Critical History* (London: Tate Publishing, 2005)

2) ハル・フォスター編『視覚論』(樽沼範久訳、平凡社ライブラリー、2007)

参考文献・視聴覚資料は、授業で言及していきます。

科目識別番号:YKED03

学 科 名 称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授 業 科 目 名:多元文化論ⅠC(社会文化史)(Multicultural History IC (Society and Culture))

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・金曜日・4時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:小宮 正安

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

ルネサンスからバロックにかけてヨーロッパを席卷した「ヴンダーカンマー」の変遷を辿りつつ、当時の世界観や宇宙観を、芸術史、科学史、社会史等を織り交ぜ、近世ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。「お洒落で綺麗なヨーロッパ」といったステレオタイプ的なイメージを覆すことが狙いです。

【授業概要】

1. 博物館とコレクションの歴史について 概論
2. ルネッサンスの再検証とヴンダーカンマーの誕生
3. ルネッサンスの宇宙観とヴンダーカンマーの世界観
4. メディチ家に見るコレクション保護政策
5. マニエリスムの誕生とヴンダーカンマーの変容
6. 皇帝ルドルフの魔術的世界観とヴンダーカンマー
7. アルチンボルドとヴンダーカンマー的コレクション
8. キルヒヤーと「キルヒヤー博物館」
9. 「自然科学」の萌芽に見る「近代的博物館」の予兆
10. バロックにおけるヴンダーカンマーの瀟洒化
11. 近代の訪れとヴンダーカンマーの解体
12. ヴンダーカンマーと博物館の差異
13. シュールレアリストたちによるヴンダーカンマー再発見
14. ヴンダーカンマーと博物館 各価値観の止揚
15. 総論・まとめ
(講義の内容を変更することがあります)

【授業方法】

受講人数にもよりますが、できるかぎり学生参加型の授業を目指します。講義に加え、個人あるいはグループによる発表を頻繁に取り入れてゆきたいと思います。受身ではなく、積極的な態度を望みます。

【履修目標】

ヴンダーカンマーを切り口に、ルネッサンスからバロックにかけてのヨーロッパの諸相を学ぶことによって、ヨーロッパの文化の特質ならびにルーツを学ぶことができます。また受講人数にもよりますが、講義に加え、個人あるいはグループによる発表を取り入れることで、発表やプレゼンテーションのスキルが身につけられます。

【成績評価の方法】

受講人数によりますが、発表 40%、授業への参加度 20%、レポート 40%を基にします。詳細は初回の授業で指示します。

【教科書・参考書】

小宮正安『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』集英社、2007。

小宮正安『猟奇博物館へようこそ ― 西洋近代知の暗部をめぐる旅』白水社、2012。

科目識別番号:YKED04

学科名称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授業科目名:社会学概論(Outline of Sociology)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・火曜日・3時限・2単位・90分

担当教員名:志田 基与師

受入れ学生数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授業概要:

【授業の目的】

社会はコミュニケーションで成り立っているという観点から理論社会学の基本的な発想法や分析手法について理解する。今年度はとくに「イノベーション」と「リスク」について知識とコミュニケーションの観点から解説を試みたい。

【授業概要】

- 1.オリエンテーション
 - 2.自然と文明の分離
 - 3.連帯と共同性
 - 4.宗教と社会1
 - 5.宗教と社会2
 - 6.宗教と社会3
 - 7.分業と市場
 - 8.分業と知識
 - 9.分業と役割
 - 10.分業と社会的地位
 - 11.知識と科学
 - 12.リスクと社会
 - 13.イノベーションと社会
 - 14.自我と社会
 - 15.現代社会診断
 - 16.定期試験
- (講義の内容を変更することがあります)

【授業方法】

別途用意する資料(授業中のスライドあるいは事前に HP に掲載する)などに基づいて古典的な講義形式で行う。出席はとらない。授業の妨げにならない限り受講態度についても注意を与えない。

【履修目標】

社会のプロセスを感性や他人の受け売りではなく社会科学の用語系で理解し記述することができ、社会に関する理解や判断を伝え合う共通の知的プラットフォームを形成する。その結果として、お互いの知識を出し合って協力して危機を乗り越えることができる。

【成績評価の方法】

過去の実績によれば、おおむね「A」20%、「B」50%、「C」20%、その他 10%程度と認識している。試験の成績のみで決定している。試験には、持ち込み、参照、外出、相談などのすべてが許される。過去問、答案の評価ポイントなどについては、個人 Web ページ <http://www5b.biglobe.ne.jp/~SHIDA/>を参照してほしい。

【教科書・参考書】

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~SHIDA/>において適宜指示する。

科目識別番号:YKED05

学科名称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授業科目名:音響文化概論(Introduction to Sound Culture)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・月曜日・2時限・2単位・90分

担当教員名:中川 克志

受入れ学生数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授業概要:

【授業の目的】

この授業は音響文化論あるいは聴覚文化論への導入となることを目的とする。

聴覚文化論とは「文化」に対して音や聴覚の方向からアプローチするものである。この授業ではそのために必要な基本的な知識を身につけることを目指す。

そのために、この授業ではまず、20 世紀以降の音響記録再生産テクノロジー——レコード、電話、ラジオ、テープ、CD、MP3——の歴史と関連する諸問題を概観する。レコード以降の音響記録再生産テクノロジーこそが 20 世紀の聴覚文化の前提となるものだからである。

また、聴覚文化論の基本的なトピックも概観する予定である。哲学、音楽学、文化人類学、歴史学、科学技術史などから、今日の聴覚文化論に関連するトピックを紹介する。

学生は、音楽や音響メディア史に関する基礎的な歴史知識を得ることで、今日の聴覚文化について考察する基盤を獲得するだろう。

【授業概要】

以下のようなトピックを予定している。

導入:聴覚文化論について:声の文化→文字の文化→電気の文化

音響技術史:レコード、テープ、CD、MP3

音楽生産の変化:音を書く夢の系譜、音楽文化の変化

メディアアートの登場:西洋芸術音楽の変化

サウンドスケープの思想

感性論の変質:音楽の哲学、音と聴覚をめぐる哲学

など

(講義の内容を変更することがあります)

【授業方法】

基本的には講義授業を行う。

必要に応じて小レポートを求める。

受講者による授業内発表も行いたい。

【履修目標】

自分が日常的に接する音楽メディアや音響メディアに対して、歴史的で批判的な視点を持てるようになること。

自分が属する文化を、聴覚的な側面から、改めて理解し直す機会を持つこと。

【成績評価の方法】

以下の基準で評価する。

授業への参加度:50%

最終レポート :50%

【教科書・参考書】

参考書:森芳久・君塚雅憲・亀川徹著『音響技術史 ～音の記録の歴史～』東京藝術大学出版会, 2011 年。

Jonathan Sterne, *The Sound Studies Reader*, Routledge, 2012.

科目識別番号:YKED10

学 科 名 称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授 業 科 目 名:共生社会論 IIA (Diversities and Societies IIA)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・水曜日・2時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:長谷川 秀樹

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

フランス共和主義とは何か。

【授業概要】

授業はプレゼン提示にておこなう。レジュメは配布しない。各自ノートをとること。プレゼンは授業前日までに授業支援システムに掲示するので各自ダウンロードすること。

7月上旬休講があり、そのため補講を行う場合があることをあらかじめ連絡しておく。

1. ガイダンス＋パックスに関するビデオを見る。
2. パックスとシビルユニオン (非婚カップルの権利)
3. パリテとクォータ制 (フランス市民に性差はあるか)
4. 育児大国フランス
5. 移民とフランス国籍
6. 極右と人種差別 (ラシズム)
7. ライシテ (政教分離) とイスラムスカーフ禁止法
8. フランスの教育とエリート主義
9. 若者の雇用と週 35 時間労働 (ワークシェアリング)
10. フランスの格差是正政策と「積極的差別」
11. フランスにおける連帯 (ソリダリテ) 1、バラン・パル・ミルの活動
12. フランスにおける連絡 (ソリダリテ) 2、「心のレストラン」の活動
13. フランスのメディア
14. フランスの個人主義／保守主義／共和主義について
15. まとめ
16. 定期試験

【授業方法】

原則講義形式だが、プレゼン資料を使用する。ビデオや映画教材も使用する。

【履修目標】

日本等外国社会との比較を通じて現代フランス社会の諸問題とそれに対する諸施策、さらにそれが投げかける議論について知ることができる。

【成績評価の方法】

期末テスト 100 点満点。これに平常点とレポート実施の場合はレポート点を加減する。平常点の詳細は授業初回で説明するほか、授業支援システムに掲示するので熟読すること。なお「秀」は履修者の上位 10%、「優」は同 20%までとする。

【教科書・参考書】

教科書: テキストは使用しない。

参考書: 三浦信孝『普遍性か差異か 共和主義の臨界フランス』藤原書店、2001 年。

『差異を生きる』明石書店、2009 年。(長谷川担当の章のみでよい)

夏川康男ほか『日仏社会学叢書 第四巻 日仏社会論への挑戦』恒星社厚生閣、2005 年。

科目識別番号:YKED11

学科名称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授業科目名:多元文化論ⅠB(政治文化史)(Multicultural History IB (Politics and Culture))

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・木曜日・3時限・2単位・90分

担当教員名:齊藤麻人・鎌原勇太 他

受入れ学生数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授業概要:

授業内容は変更することがあります。

【授業の目的】

三名の教員で担当します。

国家公務員試験(総合職・一般職)や地方公務員上級試験(都道府県庁・政令市等市役所)、あるいはマス・メディアや民間企業などの試験で重視されている政治過程・国際関係・行政・地方自治を中心に、できるだけわかりやすく説明します。

本授業を通して、履修者は政治学における政治過程・国際関係・行政・地方自治についての必要な知識を得ることで、卒業後の進路選択をさらに広げてもらうことができたと願っています。

【授業概要】

1. 「政治学とは何か」
2. 「選挙」
3. 「議会」
4. 「政治権力と民主主義」
5. 「政治体制論」
6. 「政策形成過程」
7. 「マス・コミュニケーション論」
8. 「日本政治史」
9. 「日本外交史」
10. 「国際政治理論概論」
11. 「行政制度」
12. 「行政管理」
13. 「行政評価」
14. 「中央地方関係」
15. 「地方分権改革」
16. 「定期試験」

【授業方法】

適時、PCプロジェクターやインターネットを利用しながら授業を進めていきます。

また、必要な資料については授業中に配布します。

【履修目標】

この授業を履修する学生は、現在の日本や諸外国の政治社会や地方自治体、国際関係についての基本的な知識を得ることができます。それは、卒業後に国家公務員や地方公務員、国際機関で働く職員やマス・メディアで働く上で必要なことであるだけでなく、一人の社会人として生きていく上でも必要な知識を得ることができることになります。

実践的「知」としては、特に、a.知識・教養(社会科学に関する基本的な専門知識および社会を理解し課題を見い出す領域横断的な知識・教養)、b.思考力(知識・教養を活用して課題解決のプロセスなどを構想する論理的思考力)、d.倫理観・責任感(社会の現場に積極的に関与し課題解決する意欲と責任感)を身に付けることになります。

【成績評価の方法】

期末試験 100%

【教科書・参考書】

特になし。

科目識別番号:YKED12

学科名称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授業科目名:国際学ⅡB(国際関係論) (International Studies ⅡB (International Relations))

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・火曜日・2時限・2単位・90分

担当教員名:鎌原勇太

受入れ学生数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授業内容は変更することがあります。

【授業の目的】

国際関係に関する理解は、現代のグローバル社会で活躍する人材の輩出のためには不可欠なものである。したがって、本講義では、国際関係を理解するために不可欠な次の三つの基礎的項目を広く理解し、各学生が国際関係を学ぶさらなる意欲を醸成することを目指す。

【授業概要】

1. イントロダクションー本講義のねらい

- A. 国際社会に関する伝統的な理解ー中心的なアクターとしての国家
- 2. リアリズムー国益、安全保障、勢力均衡(古典的な国際関係)
- 3. リアリズムー国益、安全保障、勢力均衡(第一次世界大戦から冷戦まで)
- 4. リベラリズムー相互依存
- 5. 従属論・構造的暴力論・世界システム論
- 6. 国際規範: 正戦論
- 7. 国際規範: 貧困・正義論

- B. 国際社会における視点ー新たなアクターとしての国際機構・非国家主体
- 8. 国際機関・地域共同体ー国連の成立の歴史・現状・問題点、EUの成立の歴史・現状・問題点
- 9. 非国家主体ーテロ組織

- C. 国際社会における諸問題
- 10. 政治体制と経済成長ー民主主義と経済成長、開発独裁と経済成長
- 11. 政治体制と国家間戦争ーなぜ民主主義国同士は戦争をしないのか？
- 12. 政治体制と内戦ーなぜ人々は争うのか？(多様な発生要因)
- 13. 政治体制と内戦ーなぜ人々は争うのか？(政治制度の観点から)
- 14. 他国からの介入ー人道的介入と民主化

15. 講義のまとめ

16. 定期試験

【授業方法】

1. 講義、2. 各単元後の簡単なリアクション・ペーパーの提出

授業は基本的に講義が中心であるが、各単元(A～Cの三回)ごとに簡単なリアクション・ペーパーを提出してもらう(レポートではないので分量は少ないが、各単元で印象に残ったことや学んだこと、もっと学びたいことなどを記述してもらう)。

【履修目標】

- 1. 国際関係に関する基本的な知識を習得することができる[a]。
- 2. リアクション・ペーパーや質疑応答を通じて、国際関係に関する自分の考えを整理し、他人に伝えることができる。

【成績評価の方法】

授業内リアクション・ペーパー(30%)、期末試験(70%)

【教科書・参考書】

ジョセフ・S. ナイ・ジュニア, デイヴィッド・A. ウェルチ 著, 田中明彦, 村田晃嗣 訳『国際紛争: 理論と歴史』有斐閣、2011年。

鈴木基史『国際関係』東京大学出版会、2000年。

鈴木基史『平和と安全保障』東京大学出版会、2007年。

科目識別番号:YKED13

学 科 名 称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授 業 科 目 名:マスコミュニケーション概論(Introduction to mass communication)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・金曜日・3時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:高橋 弘司

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:2年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

新聞を中心に、テレビ、インターネット、出版など日本のマス・メディアについて、概要を知る。簡単に各メディアの歴史にも触れる。また、報道現場の実態について、32年間の記者生活を通じた体験を網羅しつつ、社会にとって不可欠な「メディア」への理解を深める。さらに、米国をはじめ諸外国のメディア事情にも関心を広げる。

【授業概要】

1. オリエンテーション。新聞、テレビ、インターネットなどについての意見交換。
2. 新聞の実物をよく知る。新聞社の組織、新聞の効果的な読み方など。
3. 記者の仕事の実際(いくつかの事例で)
4. 記者の仕事の実際(いくつかの事例で)
5. カメラマンの仕事の実際(いくつかの事例で)
6. 事件・事故報道
7. 事件・事故報道
8. 調査報道
9. 調査報道
10. 海外報道(特派員の仕事)
11. 海外報道(特派員の仕事)
12. テレビ
13. 出版(週刊誌など)
14. 米国をはじめ諸外国のメディア事情
15. 総括
(講義の内容を変更することがあります)

【授業方法】

適宜、新聞記事などの資料やレジュメを添付する。テレビのドキュメンタリー番組、ニュース・教養番組なども活用する。指導教官が新聞記者時代に行った取材の録音、出席した記者会見の録音、写真、動画(ユーチューブ含む)、関連DVDなども利用し、取材現場を身近に感じてもらおう工夫する。学生との質疑を重視し、議論を深めることを目指す。毎回、授業についてのコメントや質問を提出してもらい、その一部を紹介する。

【履修目標】

1. マス・メディアの概要について知ることができる。
2. 報道現場の実態を知ること、日頃のニュースがより身近になる。ニュースへの関心が高まれば、人との会話に活かすことができる。
3. ニュースへの関心を通じて、社会問題について考えることができる。

【成績評価の方法】

出席20%、授業への姿勢や積極的な発言など50%、期末レポート30%

【教科書・参考書】

科目識別番号:YKED15

学 科 名 称:教育人間科学部 人間文化課程 専門教育科目

授 業 科 目 名:家族関係学(Family Relationships)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・月曜日・4－5時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:工藤 由貴子

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

家族・家族関係についての基本的概念を理解した上で、現代社会にみられる家族関係をめぐる様々な事象について取り上げ、それらを時代的、社会経済的背景のもとで考察する。個人や家族の力が最大限発揮される生活の創造という視点から課題を整理し、これからの家族について考える。

【授業概要】

1. オリエンテーション 家族関係学とは
2. 変わる人の一生と家族
3. 家族が成立する条件 家族と法律
4. 家族の変遷(1)近代家族の成立ー近代家族ーポスト近代家族へ
5. 家族の変遷(2)現代の家族 少子化 高齢化 ライフスタイルの多様化
6. 若者世代の特徴
7. 晩婚化 結婚の価値の変遷
8. 夫婦関係と性別役割分業
9. 子どもと家族
10. 若者と家族
11. 家事労働 職業労働 ワーク・ライフ・バランス
12. 現代社会の世代間関係
13. 老親と子ども
14. オルタナティブな家族
15. 関係性を問い直す これからの家族に向けて
16. 定期試験

【授業方法】

講義を中心に行うが、発表、討論などの演習も含む。

【履修目標】

- ・家族関係に関する基本的概念を理解し、説明することができる。
- ・家族や家族関係の実態を、実証データを通して客観的に把握することができる。
- ・家族の過去ー現在を社会的背景のもとで理解し、説明することができる。
- ・家族関係に関する現代的課題を整理し、説明することができる。
- ・家族のありようを問い直し、これからの家族について提案することができる。

【成績評価の方法】

レポート等提出物(30%)、期末試験(50%)、授業参加状況(20%)により総合的に成績評価を行う。

【教科書・参考書】

教科書:授業時に指示。必要に応じて資料を配布する。

参考書:

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学 四訂版』培風館、1997 年。

湯沢擁彦・宮本みち子『新版データで読む家族問題』日本放送出版協会、2008 年。

落合恵美子『21 世紀家族へー家族の戦後体制の見かた・超えかた』有斐閣選書、2004 年。

岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣コトバンク、2007 年。

利谷信義『家族の法(第3版)』有斐閣、2010 年。

国立女性教育会館編『男女共同参画統計データブック 2012 』ぎょうせい、2012 年。

科目識別番号:YKM01

学 科 名 称:経営学部専門教育科目

授 業 科 目 名:国際財務論Ⅰ (International Finance Management Ⅰ)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・木曜日・3時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:山口 修

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

金融・資本市場の国際化の中で、企業の財務行動を発行市場、流通市場の両面から取上げ、株主価値創造経営に向けた国際的な企業財務の基本的知識の習得を目指す。

【授業概要】

- 1 国際財務論の領域、基礎的知識
- 2 金融資本市場の機能と役割
- 3 資産の価値の評価
- 4 株式価値の評価
- 5 リスクの測定
- 6 ポートフォリオ理論
- 7 資本のコスト
- 8 投資の決定方法
- 9 資本構成の決定(1)、(2)
- 10 資本調達が多様化
- 11 エクイティファイナンス
- 12 社債ファイナンス
- 13 外国為替取引とキャッシュ・マネジメント
- 14 リスク管理とヘッジ戦略
- 15 まとめ

【授業方法】

授業は講義形式、必要に応じて演習問題を課す

【履修目標】

本講義を通じ、学生は国際財務および国際金融の基礎的事項をマスターし、企業の経営課題の発見・解決に向けた幅広い理解能力を涵養することができる

【成績評価の方法】

講義時間に行う小レポート(5回:配分50%)と期末レポート(配分50%)による

【教科書・参考書】

参考書:井出正介・高橋文郎『経営財務入門』(日本経済新聞社)、仁科一彦「企業財務」(日経文庫)

【履修条件】

特になし

【その他】

科目識別番号:YKM03

学 科 名 称:経営学部専門教育科目

授 業 科 目 名:経営財務論

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・水曜日・4時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:森田 洋

受 入 れ 学 生 数:特に制限なし

その他の出願条件:2年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

我々の企業に対する知識は消費者として我々が接する企業の主に商品・サービスやその価格などに関するものにすぎない。だがほとんどすべてといっていいほどの企業が我々の普段知らないところで財務的な戦略を日々考え実行している。たとえば企業の合併・買収・資本提携あるいは資金調達や自社株買いといったものがそうであり、新聞やテレビのニュースで一部が報道されている。この講義では財務(finance)のうちでも企業財務(corporate finance)と呼ばれる分野に対してミクロ経済学のアプローチをとりながら、上記の企業の財務戦略、財務行動を学び、企業の普段我々の見ない別の側面に対する理解を深めることを目的とする。

【授業概要】

- 1.イントロダクション -財務論で何を学ぶか-
- 2.会社の健康診断” -財務指標による財務分析-
- 3.現在価値とその計算公式
- 4.事業投資と株主の利益・企業価値
5. EVA(Economic Value Added(経済的付加価値))を利用した事業戦略
- 6.株式の分散可能リスクと分散不可能リスク
- 7.事業譲渡・企業合併・買収
- 8.新株発行と株主の利益
- 9.資本構成と企業価値
- 10.トレードオフ理論と最適資本構成
- 11.社債の格付けと倒産リスク
- 12.情報の非対称性と資金調達
- 13.自社株買いと株主還元
- 14.コーポレートガバナンス
- 15.まとめ
- 16.定期試験

【授業方法】

実際のデータや新聞記事などを使いながら企業の実例を紹介しつつ、企業にとって重要な財務戦略がどうあるべきかを理論的に解説していく。上記内容は毎回配布の講義資料に掲載する。

毎回講義の終わりに得られた知識および内容の理解度を確認するためにミニテストを行う。

【履修目標】

新聞をにぎわす買収、資本提携、資金調達等企業の財務戦略とはどのようなものかを理解できるようになる。[a]

企業にとっての最適な財務行動とはどのようなものかを考えることができるようになる。[b]

実際の企業は財務戦略をどのように実行しているかを人に説明することができるようになる。[a]

【成績評価の方法】

ミニテストの出来具合および出席に対して 20%、定期試験に対して 80%の割合で評価する。

【教科書・参考書】

参考書 砂川伸幸著 コーポレート・ファイナンス入門 日本経済新聞社

参考書 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳 共著 日本企業のコーポレート・ファイナンス 日本経済新聞社

参考書 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子 共著 経営戦略とコーポレート・ファイナンス 日本経済新聞社

【履修条件】

統計学の知識があると理解しやすいと考えられるため、統計学関連の講義の受講を済ませておくことが望ましい。

また経済学的思考を利用するのでミクロ経済学関連の講義の受講を済ませておくことも望ましい。

【その他】

科目識別番号:YKM04

学科名称:経営学部専門教育科目

授業科目名:経営財務論

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・水曜日・7時限・2単位・90分

担当教員名:森田 洋

受入れ学生数:特に制限なし

その他の出願条件:2年生以上

授業概要:

【授業の目的】

我々の企業に対する知識は消費者として我々が接する企業の主に商品・サービスやその価格などに関するものにすぎない。だがほとんどすべてといっていいほどの企業が我々の普段知らないところで財務的な戦略を日々考え実行している。たとえば企業の合併・買収・資本提携あるいは資金調達や自社株買いといったものがそうであり、新聞やテレビのニュースで一部が報道されている。この講義では財務(finance)のうちでも企業財務(corporate finance)と呼ばれる分野に対してミクロ経済学のアプローチをとりながら、上記の企業の財務戦略、財務行動を学び、企業の普段我々の見ない別の側面に対する理解を深めることを目的とする。

【授業概要】

- 1.イントロダクション -財務論で何を学ぶか-
- 2.会社の健康診断” -財務指標による財務分析-
- 3.現在価値とその計算公式
- 4.事業投資と株主の利益・企業価値
5. EVA(Economic Value Added(経済的付加価値))を利用した事業戦略
- 6.株式の分散可能リスクと分散不可能リスク
- 7.事業譲渡・企業合併・買収
- 8.新株発行と株主の利益
- 9.資本構成と企業価値
- 10.トレードオフ理論と最適資本構成
- 11.社債の格付けと倒産リスク
- 12.情報の非対称性と資金調達
- 13.自社株買いと株主還元
- 14.コーポレートガバナンス
- 15.まとめ
- 16.定期試験

【授業方法】

実際のデータや新聞記事などを使いながら企業の実例を紹介しつつ、企業にとって重要な財務戦略がどうあるべきかを理論的に解説していく。上記内容は毎回配布の講義資料に掲載する。

毎回講義の終わりに得られた知識および内容の理解度を確認するためにミニテストを行う。

【履修目標】

新聞をにぎわす買収、資本提携、資金調達等企業の財務戦略とはどのようなものかを理解できるようになる。[a]

企業にとっての最適な財務行動とはどのようなものかを考えることができるようになる。[b]

実際の企業は財務戦略をどのように実行しているかを人に説明することができるようになる。[a]

【成績評価の方法】

ミニテストの出来具合および出席に対して 20%、定期試験に対して 80%の割合で評価する。

【教科書・参考書】

参考書 砂川伸幸著 コーポレート・ファイナンス入門 日本経済新聞社

参考書 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳 共著 日本企業のコーポレート・ファイナンス 日本経済新聞社

参考書 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子 共著 経営戦略とコーポレート・ファイナンス 日本経済新聞社

【履修条件】

統計学の知識があると理解しやすいと考えられるため、統計学関連の講義の受講を済ませておくことが望ましい。

また経済学的思考を利用するのでミクロ経済学関連の講義の受講を済ませておくことも望ましい。

【その他】

科目識別番号:YKEG03

学 科 名 称:理工学部専門教育科目

授 業 科 目 名:塑性力学

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・金曜日・2時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:川井 謙一

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

固体材料に加えていた外力を取除いた際に、材料が元の形に戻る性質を弾性と呼ぶのに対して、元の形に戻らない性質を塑性と呼んでいる。この材料の塑性という性質を利用すれば種々の形状に加工することができ、塑性加工技術として広く応用されている。材料が塑性変形を開始するための条件、塑性変形を継続する際の応力とひずみの関係式、さらに塑性変形を生じている際の材料内部の応力状態とひずみ状態を調べるための基礎的な理論を学び、基本的な変形様式に対する例題を通してその理解を深める。

【授業概要】

- 1 塑性変形の概要、単軸引張りにおける応力-ひずみ曲線、真応力と真ひずみ(対数ひずみ)
- 2 単軸引張りにおけるくびれ発生条件、単軸圧縮試験、応力-ひずみ曲線の数式表示
- 3 温度・静水圧が応力-ひずみ曲線に及ぼす影響、初等理論によるはりの塑性曲げの解析
- 4 はりの塑性曲げにおける全塑性曲げモーメント、塑性関節によるはりの崩壊荷重の極限解析
- 5 はりの塑性曲げにおける残留応力、はりの塑性曲げにおけるスプリングバック
- 6 円形断面棒の塑性ねじりと塑性ねじりモーメント、任意の断面形状棒の全塑性ねじりモーメント
- 7 応力の定義、応力成分の定義、主応力、応力の不変量、偏差応力
- 8 応力の釣合い式、ひずみ増分と変位増分の関係式、偏差ひずみ増分
- 9 金属材料の降伏条件式、相当応力と von Mises の降伏条件式、Tresca の降伏条件式
- 10 降伏条件式の実験的検討、一般化された Hooke の法則、相当塑性ひずみ増分、Reuss の式、弾塑性体に対する Prandtl-Reuss の式
- 11 剛塑性体に対する Levy-Mises の式、Hencky の式、ひずみ増分理論と全ひずみ理論の比較
- 12 単軸圧縮のスラブ法による解析、平面ひずみ圧縮試験
- 13 平面ひずみ圧縮のスラブ法による解析、剛塑性体の平面ひずみ問題における基礎式
- 14 静的可容応力場と動的可容速度場、最大塑性仕事の原理、divergence の定理
- 15 上界定理と下界定理、平底パンチ押し込みの上界接近法による解析
- 16 定期試験(教科書、ノート、参考書の持込み不可)

【授業方法】

毎週演習を行い、演習と家庭学習のレポートは採点をした後、翌週の授業開始前に返却する。

【履修目標】

塑性変形を生じている材料内部の応力分布とひずみ分布を調べるには、応力の釣合い式、材料の降伏条件式、塑性域における非圧縮性条件式、応力-ひずみ関係式を与えられた境界条件式に対して連立させて解く必要があり、このために必要な基礎式と理論を理解する。個別目標としては、

- 1 組合せ応力状態における主応力と偏差応力を理解する。
- 2 組合せ応力状態における降伏条件式を理解する。
- 3 組合せ応力状態における応力の釣合い式を理解する。
- 4 組合せ応力状態における Reuss の式を理解する。

【成績評価の方法】

授業中に演習および家庭学習としてのレポートを課すが、成績評価はそれらの結果(30%)と期末試験(70%)を総合的に評価し、100 点満点で 60 点以上を合格と判定する。

【教科書・参考書】

教科書:葉山益次郎著「大学課程 塑性学と塑性加工」、オーム社、(1982)。

科目識別番号:YKEG04

学 科 名 称:理工学部 専門教育科目

授 業 科 目 名:電気化学 B (Electrochemistry B)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・月曜日・2時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:渡邊 正義、獨古 薫

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

電気化学系は、電子移動反応を通じた、化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換の場として、また化学情報と電気信号の相互変換の場として、人工系そして生体系で重要な役割を担っている。人工系では、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどを、生体系では代謝、光合成、神経伝達などを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。この講義では、電位が熱力学量(平衡論)、電流が反応速度(速度論)を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることをねらいとする。

【授業概要】

第1回 電気化学系の姿(むかし習った電気分解を忘れよう)

第2回 電気化学系の姿(電解界面のワンダーランド)

第3回 電気化学系の姿(電気分解の進み方)

第4回 物質のエネルギーと平衡(化学変化とエネルギー)

第5回 物質のエネルギーと平衡(化学平衡とエネルギー)

第6回 標準電極電位(電位と電位差)

第7回 標準電極電位(標準電極電位が持つ意味)

第8回 標準電極電位(ネルンストの式)

第9回 電解電流(電位が決める電流)

第10回 電解電流(電位が決める電流)

第11回 電解電流(物質輸送が決める電流)

第12回 電解電流(物質輸送が決める電流)

第13回 電解液(物質や電解液の導電性)

第14回 電解液(イオンの移動度)

第15回 まとめ

【授業方法】

各回の授業を受けた後に、教科書の該当する部分を復習しておくこと。

授業時間後に質問を受け付け、必要であれば指定された時間に教員室で詳しく質問に応じる。また電子メールであれば、随時質問等を受け付ける。

【履修目標】

1. エネルギーと化学平衡の関係を電位と電気化学平衡の関係まで拡張して理解する。
2. 化学反応と電気化学反応の違い、化学平衡と電気化学平衡の違いを理解する。
3. 電極電位は電気化学反応のエネルギーを、電解電流は反応速度を反映した物理量であることを理解する。
4. 電解電流が電極電位と物質輸送に対してどのように依存するかを理解する。
5. 化学エネルギーあるいは化学情報と電気エネルギーあるいは電気信号の相互変換が可能なことを理解する。
6. 物質や電解液の導電性を決める因子について理解する。

【成績評価の方法】

原則としてすべての講義に出席したものにつき、下記のとおり成績を評価する。

秀:履修目標を全て達成しており、かつ中間試験・期末試験の合計点(100点満点)が90点以上

優:履修目標を5つは達成しており、かつ中間試験・期末試験の合計点(100点満点)が80点以上

良:履修目標を4つは達成しており、かつ中間試験・期末試験の合計点(100点満点)が70点以上

可:履修目標を3つは達成しており、かつ中間試験・期末試験の合計点(100点満点)が60点以上

【教科書・参考書】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」(丸善)

科目識別番号:YKEG05

学 科 名 称:理工学部専門教育科目

授 業 科 目 名:化学安全工学(Engineering for Chemical Safety)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・月曜日・1時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:岡 泰 資

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

産業形態の変貌に伴い、生産現場も従来の大量生産型から独創的な技術を土台とした多品種の魅力ある高機能製品を少量生産する現場へと移行しつつある。このような分野では、物質自体が火災・爆発性を有するもの、漏洩によって健康障害を引き起こしたり、地球環境に重篤な負荷を与えたりするもの、製造過程が危険なものなど、新規化学物質を含めた多彩な化学物質を複雑な条件下で操る必要がある。このため単に対処療法的な方法でなく、各種装置の制作やプロセス設計の段階から運転あるいは廃棄にいたるまでのすべての工程と化学物質の関係を対象とした詳細な安全評価を実施する必要がある。

そこで、これらの諸問題に対応するための基礎知識や活用方法に関する内容を通して、安全管理に対する考え方の修得を目的とする。

【授業概要】

1. 安全対策の変遷について
2. 化学物質の発火・爆発危険性危険性による分類と安全管理(Ⅰ)
3. 化学物質の発火・爆発危険性危険性による分類と安全管理(Ⅱ)
4. 危険源とその特性
5. 予混合火炎の性質について
6. 拡散火炎の性質について
7. 気体燃焼とその特性
8. 液体燃焼とその特性
9. 固体燃焼とその特性
10. ガス爆発の危険性予測と評価
11. 噴霧爆発・粉塵爆発の危険性予測と評価(
12. 火炎伝播について
13. 熱発火理論(Ⅰ) Semenov 理論
14. 熱発火理論(Ⅱ) Frank-Kamenetskii 理論
15. 火災感知と消火
16. 試験

【授業方法】

配付資料(ビデオ教材や新聞記事なども含む)にもとづき授業を進める
授業内容の理解度を確認するために小テストを実施する

【履修目標】

1. 可燃性物質の性質と燃焼現象が理解できるようになる
2. 火災・爆発現象とその制御方法の考え方が習得できる
3. 組織としての防止対策の考え方が習得できる

【成績評価の方法】

原則としてすべての講義に出席した者につき、下記のとおり成績を評価する。

秀:履修目標に関する試験および講義中の演習等の合計点(100 点満点)が 90 点以上(*)

優:履修目標に関する試験および講義中の演習等の合計点(100 点満点)が 80 点以上

良:履修目標に関する試験および講義中の演習等の合計点(100 点満点)が 70 点以上

可:履修目標に関する試験および講義中の演習等の合計点(100 点満点)が 60 点以上

準可:履修目標に関する試験および講義中の演習等の合計点(100 点満点)が 50 点以上(**)

【教科書・参考書】

教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目識別番号:YKEG08

学 科 名 称:理工学部専門教育科目

授 業 科 目 名:生物海洋学(Biological Oceanography)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・火曜日・2時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:菊池 知彦

受 入 れ 学 生 数:最大10名

その他の出願条件:特になし

授 業 概 要:

【授業の目的】

海洋は地球表面の7割を占め、最大深度は 11,000m を超え、平均深度は 3800m、地球の陸地を含めた平均深度は 2440m にもなる巨大な水空間である。この海洋空間は水の持つ特性に支えられて地球環境の安定に大きな影響を及ぼすとともにその生物生産は地球上の物質の循環にとって決定的な役割を果たしている。本講では地球にとっての海洋という視点から海洋の構造を確認し、海洋での物理化学的過程、生物学的過程を通じた物質の循環から地球生態系における海洋の役割を捉えるとともに、総合学問(ホリスティックサイエンス)としての海洋学の面白さを学ぶ。

【授業概要】

- 1 オリエンテーション 地球と海洋
- 2 海洋の構造:水平的広がりと鉛直的広がり
- 3 海面温度、海面塩分、海流の分布、コリオリの力
- 4 海洋の鉛直構造:海洋の光環境、海洋の水温環境
- 5 海洋の鉛直構造:海洋の圧力環境、海洋の溶存酸素
- 6 海洋の鉛直構造:海洋の栄養塩
- 7 海洋の鉛直構造:T-S ダイアグラムと深層流
- 8 海洋の鉛直構造:海洋大循環
- 9 海洋の生命:生活型とサイズ分け
- 10 海洋の基礎生産:海中の光合成過程
- 11 海洋の基礎生産:栄養塩摂取
- 12 海洋の基礎生産:臨界深度モデル
- 13 深海生物学
- 14 海洋の物質循環
- 15 海洋と人間
- 16 定期試験

【授業方法】

講義による。

【履修目標】

地球における海洋の構造を学ぶ

海洋の空間的広がりの中で起こる物理、化学、生物的变化を学ぶ

海洋大循環の機構と海洋における物質の循環を学ぶ

【成績評価の方法】

出席と毎回配布する質問・感想シートの内容、ならびに定期試験の成績で判定する

【教科書・参考書】

授業は配布するプリントをもとに行い、教科書は指定しない。

参考書については授業において適宜紹介する

科目識別番号:YKEG11

学 科 名 称:理工学部専門教育科目

授 業 科 目 名:コンパイラ(Compiler)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・木曜日・1時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:田村 直良

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

計算機システムを動作させるためには、ソフトウェアを記述するためのプログラムが必要である。人間がプログラムを記述する際に利用する言語は、通常、人間にとって理解しやすく開発・保守が容易なプログラミング言語(高水準言語)である。一方で、計算機システムが直接解釈できるプログラムは機械語で記述されたものである。本講義では、前者から後者を生成するソフトウェアであり、計算機システムの根幹を支えるコンパイラについて、その概念と基本構造を学ぶ。

【授業概要】

1. 言語処理系とコンパイラ
2. 後置記法、スタック、コンパイラの処理過程
3. 文法と言語 ― 構文規則、バックス記法、構文図式、解析木
4. プログラミング言語 PL/0'
5. 字句解析(1)― 文字読み取り、字句読み取り
6. 字句解析(2)― 正規表現、有限状態オートマトン(NFA,DFA)
7. 字句解析(3)― 字句解析プログラムの生成
8. 構文解析(1)― 下向き構文解析、LL(1)文法
9. 構文解析(2)― 再帰的下向き構文解析
10. 意味解析(1)― 意味解析とは、記号表、表の探索、ハッシュ法
11. 意味解析(2)― ブロック構造と記号表
12. 誤りの処理
13. 仮想マシンと通訳系
14. 目的コード生成
15. コンパイラの実例
16. 定期試験

【授業方法】

教科書の内容を中心にし、適宜、話題を補いつつ講義を進める。
毎回の講義において簡単な演習を行い、理解を深める。

【履修目標】

1. コンパイラ概念を理解し、その役割を他者に説明できる。(実践的「知」:a.知識・教養, b.思考力)
2. プログラミング言語をコンパイラ作成者の立場から理解し、他者に説明できる。(実践的「知」:a.知識・教養, b.思考力)
3. コンパイラの構成を理解し、他者に説明できる。(実践的「知」:a.知識・教養, b.思考力)
4. コンパイラの実現方法を理解し、他者に説明できる。(実践的「知」:a.知識・教養, b.思考力)

【成績評価の方法】

ほぼ全ての講義に出席することを単位習得の必須条件とし、全体の成績に対して、小演習等の授業の受講状況を 30%、期末試験の成績を 70%に配分し総合的に評価する。

【教科書・参考書】

(教科書) 中田育男, "コンパイラ," オーム社, 1995. (ISBN 9784274130137)

(参考書 1) 中田育男, "コンパイラの構成と最適化," 朝倉書店, 2009. (ISBN 9784254121773)

(参考書 2) A. V. エイホ 他, "コンパイラ 原理・技法ソール (単行本)," サイエンス社, 2009. (ISBN 9784781912295)

教科書補足 教科書欄の教科書を使用する。また、必要に応じて印刷物を配布する

科目識別番号:YKEG12

学 科 名 称:理工学部教養教育科目

授 業 科 目 名:情報工学概論(Introduction to Computer Science and Technology)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・金曜日・3時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:長尾 智晴, 情報工学EP 全教員

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:

授 業 概 要:

【授業の目的】

情報工学(Computer Science)は広範囲な産業技術を支える基盤となっており、その基礎は離散数学をベースとする美しい数学体系に支えられている。情報工学に対する基礎的な知識と理解は理工系の素養として必要不可欠である。本授業では、情報工学の基礎となるコンピュータの原理や仕組みの理解からそれを支える基礎理論、あるいは先端的な応用まで、重要なトピックスを取り上げ、それを専門とする教員により1〜数コマを使って分かりやすく講義する。

【授業概要】

1. 情報工学とは何かー社会における情報工学の役割
2. コンピュータの成り立ち、基礎
3. 情報工学基礎(1)
4. 情報工学基礎(2)
5. プログラミングと言語処理
6. 画像処理
7. 自然言語処理(1)
8. 自然言語処理(2)
9. WEBと情報検索
- 10.人工知能
- 11.ネットワークとセキュリティ(1)
- 12.ネットワークとセキュリティ(2)
- 13.データベース
- 14.マルチメディア(1)
- 15.マルチメディア(2)

【授業方法】

授業は各教員によって準備された画像教材などのオリジナルコンテンツを中心に進め、必要に応じてプリントを配布し、授業中に演習または小テストを行う。

【履修目標】

本授業はコンピュータを中心とする情報工学の分野がどのような対象をどのように扱っているか、表面的ではなくそのアプローチの本質と限界を理解してもらうことを目標とする。またこれから情報工学をさらに深く学ぼうとする者にとって、どのように勉強をしてゆけばよいかの導入の役割も果たす。

【成績評価の方法】

成績評価は授業中に課した演習の結果や出席状況、レポート、定期試験の結果を踏まえて総合的に決める。

【教科書・参考書】

教科書は用いない。毎回の担当教員が必要に応じて資料を配布する。

科目識別番号:YKEG14

学 科 名 称:理工学部専門教育科目

授 業 科 目 名:情報セキュリティ (Information Security)

履修期間・曜日・時限・単位数・授業時間:春学期・木曜日・2時限・2単位・90分

担 当 教 員 名:松本 勉

受 入 れ 学 生 数:若干名

その他の出願条件:3年生以上

授 業 概 要:

【授業の目的】

暗号、電子署名、認証、ネットワークセキュリティ、ソフトウェアセキュリティ、情報ハイディング、耐タンパー性、生体認証、社会的制度などを含む情報セキュリティにつき、体系的に学ぶ。

【授業概要】

第1回 情報セキュリティの基礎

第2回 暗号の基礎

第3回 共通鍵暗号とハッシュ関数

第4回 公開鍵暗号とデジタル署名

第5回 数論的問題の困難性

第6回 情報量的セキュリティ技術

第7回 情報ハイディング

第8回 暗号鍵管理

第9回 セキュリティプロトコル

第10回 耐タンパー技術

第11回 ユーザ認証とアクセス制御

第12回 バイオメトリクス

第13回 ソフトウェアセキュリティ

第14回 ネットワークセキュリティ

第15回 セキュリティに関する社会的制度

第16回 期末試験

【授業方法】

参考資料を授業に配布し、主にプロジェクトを用いた解説を行う。また、毎回、授業時間の最後に小テストを行う。

【履修目標】

情報セキュリティの基本的な概念を身につけることを目標とする。情報セキュリティに関する最先端技術や制度を理解できる素養を身につけることができれば単位が与えられる。

【成績評価の方法】

成績は、毎回の小テストへの回答を前提とし(30%)、期末試験の結果を重視して(70%)、総合的に評価する。

【教科書・参考書】

教科書はとくに指定しない。

参考書・参考文献は授業中に随時紹介する。

【履修条件および関連科目】

線形代数学、計算機アーキテクチャ、情報数学、情報理論、計算法論等を学習し、情報工学・科学の基礎的知識を備えていることを前提とする。